



### 開館5周年記念特別展

# 海を渡ったキリスト教 東西信仰の諸相

◎会期／2010年11月2日(火)～12月11日(土)  
◎主催／西南学院大学博物館 ◎協力／船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

#### 開催概要

日本は鎖国以前、外国と交易し、貿易による富を得て発展してきました。交易国であるポルトガル船やスペイン船を通じてもたらされたキリスト教文化は、当時の人たちに浸透し、定着していきました。日本では1549年にフランシスコ・ザビエルが来航して以来、九州をはじめ各地域へ広がりました。

一方フィリピンでは、1521年にスペイン国王に派遣されたマゼランがフィリピン諸島に到着し、ローマ・カトリックのミサがおこなわれます。日本ではキリスト教禁教政策がすすめられましたが、フィリピンでは植民地政策のなかで、布教が展開されました。

このように、海を通じてもたらされたキリスト教がアジアを中心とした非西欧圏の人々にどのように受け入れられたのか、本展覧会では、その実像に迫ります。なお、本学博物館は来年5月に開館5周年をむかえるにあたり、その記念特別展として本展覧会を開催いたします。



#### ◇展示構成

### I. 海路を通じて～外国船がもたらしたもの

四面を海で囲まれた日本は、船舶を通じて文物や文化をはじめ、新しい知識や思想がもたらされました。ここでは天文・科学の分野からその事例を紹介します。

〔主な資料〕  
遠眼鏡(神戸大学海事科学部海事博物館蔵)  
地球全図(京都大学附属図書館蔵)など



### Ⅲ. 非西欧圏のキリスト教～イメージの具象化

西欧で生まれたキリスト教はフィリピンをはじめ、中国、エチオピア、メキシコなどにも広まっています。歴史的背景の異なる国々で、キリスト教はいかに受容されていったのか。具象化されたその姿を紹介します。

〔主な資料〕  
聖バカリス祈禱画(西南学院大学博物館蔵)  
景教僧文青磁壺(西南学院大学博物館蔵)など



### Ⅱ. 日本のキリスト教～信仰と弾圧、そして復活～

フランシスコ・ザビエルが来航して以降、日本にキリスト教が広まり、町には西洋文化の彩りがあふれます。しかしこれも長続きせず、豊臣秀吉による伴天連追放令にはじまり、江戸時代になると絵踏みなどによる禁教政策が展開されました。こうしたなかでもキリスト教はひそかに信仰され、そして復活の時代を迎えるのでした。

〔主な資料〕  
救世主像(東京大学総合博物館蔵)  
聖母子着彩メダイ(平戸市生月町博物館・島の館蔵)  
キリタン禁制定書(長崎県指定文化財)(松浦史料博物館)など



### Ⅳ. 現存するキリタン書物

長崎浦上村のキリタンが所持していた書物は浦上崩れなどで多数没収され、復活の時代を迎えた彼らは新しい教書を求めていきました。こうした教会暦や教書の類からは当時のキリタンの息吹を感じることができます。

〔主な資料〕  
御十字架之道行(清水絨一氏蔵)  
御みさのらしよ(清水絨一氏蔵)など



#### 行事予定

2010(平成22)年

#### 【企画展／特別展】

11月2日(火)～12月11日(土)  
海を渡ったキリスト教—東西信仰の諸相  
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月13日(月)～3月1日(火)〔予定〕  
蒙古襲来絵詞と元寇防塁  
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

#### 【講演会など】

12月4日(土)18:00～21:00・5日(日)13:30～18:30  
福岡・パッコレギウム定期演奏会  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

12月11日(土)12:00～17:00  
西南プリエールクリスマスコンサート  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

#### 【ワークショップ】

12月11日(土)10:00～12:00  
クリスマスのグリーティングカードをつくろう  
[場所] 博物館実習室

2011(平成23)年

#### 【講演会など】

3月26日(土)・27日(日)10:00～17:00  
MI・らん・NEコンサート“明日に輝け未来に翼ひろげるコンサートvol.4”  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

#### 【ワークショップ】

1月8日(土)13:30～15:30(予定)  
お正月について学ぼう!留学生のお兄さんお姉さんと餅つきをしよう!  
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂・クロスプラザ前

2月5日(土)10:00～12:00  
鬼の面をつくろう[場所] 西南コミュニティセンター

3月12日(土)10:00～12:00  
おひな祭りをしよう[場所] 西南コミュニティセンター

#### せいなんこどもワークショップ

10月からせいなんこどもワークショップをおこなっています。学生ボランティアの協力もあり、多くの児童や保護者が参加しています。



ワークショップの参加者たち

### 西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室  
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

#### ●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)  
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]  
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]

入館料 / 無料

#### 来館者掲示板

常設展が聖書の歴史や聖書に出てくるものなどがよくわかりとても良いです。常設展の図録があればいいのにと来る度に思います。(2010/09/21 Fさん 40代)

様々な聖書写本の展示などは当館の特徴の一つです。貴重なご意見ありがとうございます。

北海道から来たおじいちゃんとおばあちゃんといっしょに来ました。これで何回目かわかりません。また来たいです。(2010/10/15 Iさん 10代)

—Iさん、いつもこ来館ありがとうございます。おじいちゃんやおばあちゃんとお仲良くですね。常設展が少し変わっているのは気づいたかな?また遊びに来てね。

キリスト教のことがわかりやすく展示してあるのがよい。学院関係資料にも興味がわきました。(2010/10/23 男性 20代)

—キリスト教および学院関係資料は当館における展示の核です。その特徴をより活かせるように、今後もさまざまな工夫をしていくことが大切ですね。

福岡の地で起こった歴史的事象についてお話を聞いて満足しています。16世紀の九州における東西交流史はとても大切な鍵とっております。(2010/11/07 S-Iさん 60代)

—特別展関連公開講演会へのご参加ありがとうございます。これからも、地域のみなさんに興味を持っていただけるような企画を開催していきたいと思ひます。

—来館者のみなさん、いつも心温まるメッセージありがとうございます。今回は、特別展とともに常設展に関するコメントもいくつかいただきました。常設展の充実、博物館展示の基本のひとつです。当館の常設展では、今夏から新たな展示ブースを加え、定期的な展示品の入れ替えに取り組んでいます。“常設だからいつも同じ”ではなく、良いところは保ちながらも少しずつ変化している常設展をお楽しみください。(博物館スタッフ F-Kより)



#### アクセスマップ ACCESS MAP



福岡空港	→ 西新駅下車	約17分
博多駅	→ 西新駅下車	約12分
天神	→ 西新駅下車	約8分
*地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分		
博多駅バスターセンター	→ 修験館前	約35分
天神	→ 修験館前	約20分
*修験館前バス停から徒歩5分		
福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ)	→ 大学	約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ)	→ 大学	約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ)	→ 大学	約15分

# News

## 西南学院大学博物館ニュース

Volume 05 2010.12

◎西南学院大学



聖インドロ画  
[西南学院大学博物館所蔵]

## 特集 聖インドロ画

貧しい小作農の家に生まれた敬虔な信者  
博物館紹介◎ 特別展示室(展示室II)  
特別展紹介 海を渡ったキリスト教—東西信仰の諸相—  
所蔵品紹介 聖インドロ画  
大学博物館紹介◎ 神戸大学海事博物館  
大学周辺情報◎ 東キャンパスにそびえるユリノキ

SEINAN GAKUIN  
1920



## 特別展示室（展示室II）

「特別展示室」（展示室II）では、春と秋の年に2回特別展を開催しています。これまで8回の特別展を開催しており、その内容も日本のキリスト教に関するものや、ユダヤ教に関するもの、本学博物館を設計したW.M.ヴォーリズのものなど多岐にわたります。このなかの、シリーズ企画として、キリスト教の源流であるユダヤにスポットをあて、ユダヤの美術工芸品を多数展示した「ジュダイカ・コレクション」や、九州各地のキリスト教文化に焦

点をあてた「九州のキリスト教シリーズ」をおこなっております。現在は、船の科学館・海と船の博物館ネットワークの協力をうけて、開館5周年記念特別展「海を渡ったキリスト教」を開催しています。大学博物館の調査・研究の成果を広く社会還元する機会として、いろいろな切り口から特別展を実施しています。今日では国内外を問わず、多くの来館者、リピーターの方に恵まれています。



使命としての建築—ウィリアム・メレル・ヴォーリズと西南学院—(08.05.12~07.05)

祈りの継承—ユダヤの生活と儀礼—(09.11.10~10.01.16)



南蛮の鼓動—大分に残るキリタン文化—(10.05.27~07.03)

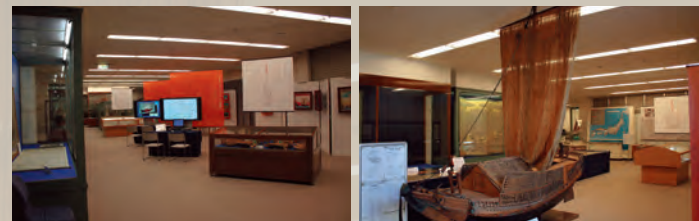


海を渡ったキリスト教—東西信仰の諸相—(10.11.2~12.11)

### 【大学博物館紹介⑤】

## 神戸大学海事博物館

神戸大学(当時神戸商船大学)では、神戸大学海事博物館の前身にあたる「海事参考館」が1958(昭和33)年に発足されたと同時に、海事関係の資料を収集、展示されてきました。1967(昭和42)年に「海事資料館」と改称、さらに2003(平成15)年10月、神戸大学との統合を契機に、翌年「海事博物館」となりました。主な資料には和船や江戸・明治期の海運・航海資料、海運界関係者のコレクションなどがあり、その数は約30,000点に及びます。なかでも江戸時代の航海図や屏風などは来館者の目をひきます。神戸大学海事博物館のHPでは所蔵資料の一部がデジタル化され、バーチャルミュージアムが開設され一般公開しています。博物館活動としても企画展や市民セミナーの開催、年報の刊行などがおこなわれています。



開館時間：月・水・金 13:30~16:00  
休 館：火・木・土・日 祝祭日・お盆・年末年始  
連 絡 先：TEL 078-431-3564  
U R L：http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp

### 所 蔵 品 紹 介

## 聖インドロ画 19世紀

貧しい小作農の家に生まれた敬虔な信者



聖インドロを祈る信者



水を湧かせる奇跡



牛に鋤をひかせる天使



観音開き仕様の扉をあけると、中央に農民聖インドロを配した聖像画があります。インドロには聖人に描かれる頭光(ニンプス)がみられ、荘厳な姿でたっている様子を描いています。聖インドロの横には立膝で手を合わせる信仰者、背後には牛に鋤をひかせる羽をもつ天使が描かれています。

インドロ(1070頃~1130)は、スペインマドリッド近郊の貧しい小作農の家に生まれた敬虔な信者でした。インドロは数々の奇跡を経験したといわれます。例えば、インドロの礼拝中に

は天使が彼にかわって牛に鋤をひかせて畑仕事をすすめてくれたり、地面に杖をつくと、水が湧いてくるという奇跡をおこしました。こうしたことからインドロは守護聖人といわれ、インドロが体験した数々の奇跡がこの一枚に集約されています。

### 学芸員の眼 — 連携事業 —

“博学連携”、“学社連携”ということばを一度は聞かれたことがあるかと思いますが、これは博物館と学校機関、学校機関と社会教育機関がお互い連携して補完しあう関係をいいます。また、学校機関と社会教育機関がお互い重なり合う関係を“学社融合”ともいいます。大学博物館は学校機関であり社会に開かれた教育機関であるため、博学双方の要素をもちます。本学博物館は、甘木歴史資料館で開催されました「秋月・今村のキリタン—信仰・禁教・祈り続けて

—」に協力し、展示資料の貸し出しや図録への寄稿、講演会への講師派遣などをおこないました。また、海の中道マリワールドでは実習生による企画展を去年に引き続き開催させていただきました。そして、本学博物館で開催中の特別展は船の科学館・海と船の博物館ネットワークから支援をうけております。こうした学外の機関との連携を深めながら、博物館同士がお互い質を高めあって、次のステージに進化していければと思います。

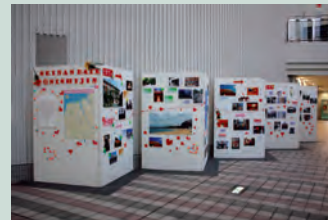
博物館学芸員 安高啓明



甘木歴史資料館



西南学院大学博物館



海の中道マリワールド

博物館ニュースNo.4、No.5では、本学博物館実習生9名の実習に参加した感想などを掲載しています。  
※このコーナーはデザインを含め実習生によるものです。

## 企画展を考えて



## 博物館実習体験記

実習を通して、学芸員の様々な仕事を体験させて頂き、全ての作業の中に、“いかに良い展示をするか”の学芸員の力量が試されている事を実感しました。今後、博物館を訪れる際は、学芸員が展示に込めた想いをくみ取りながら観賞したいと思います。

文学部4年

徳 判 葵



実習で特に印象に残ったのは、日通の作業員の方に学んだ資料梱包実習です。プロの方の手際の良さや正確さが目に釘付けでした。また、安高先生と日通の方のやり取りを見て、その連携の重要性を学ぶことが出来ました。貴重な体験が出来、実りのある2週間となりました。

商学部4年

藤吉小巻



学芸員という職に対して閉鎖的な印象がありましたが、実習を通して様々な人との関わりがあることを知り、見方が変わりました。また、一つ一つの作業は、実際にやらないと分からないことが多く大変でした。企画書作りでは、アイデアを提案し、企画することの難しさを知り勉強になりました。

経済学部4年

佐藤 春菜



実習を通して、実際に企画展を作り上げる作業をすることで、学芸員の仕事の幅の奥深さを体験することができました。また、今回チームで協力して作業することがほとんどで、仲間の意見に学ぶことの多い充実した実習となりました。

経済学部4年

池内みどり



### スタッフの声

西南学院大学博物館は2006年5月に開館し、今年で5年目を迎えています。開館以降様々な活動を行なっておりますが、昨年度は1つの転機のある年で、博物館相当施設への指定、博物館実習の開始、博物館年報の刊行などがありました。そしてこの博物館ニュースは、このようなことを含めた活動を皆様にお伝えするために、同じく昨年度刊行されたものです。当館ではこれを機に、展示活動はもとより、これに伴う講演会や公開講座などにおいても今まで以上に活発な活動を予定しております。そして、その活動の予定、あるいは結果を皆様にお伝えすることにより、より開かれた博物館を目指しています。そのためにもスタッフ一同日々努めてまいります。

臨時職員 本学大学院国際文化研究科博士前期課程 中尾祐太

【大学周辺情報⑤】  
東キャンパスにそびえるユリノキ  
博物館を訪れるお客様からよく、樹木の名前を尋ねられることがあります。それは、博物館の東側、コ

ミニティーセンター入口前に植えられているユリノキです。初夏にチューリップに似た白い花を咲かせるので、チューリップツリーともよばれています。この樹は戦前に、当時の文学部教授であったアルマ・グレーヴス先生が植えられたと伝えられています。この樹と赤レンガの博物館の組み合わせは、戦前の西南学院の面影を現在に残しています。

臨時職員 本学大学院国際文化研究科博士後期課程 貞清世里

